

令和7年度（令和6年度事業対象） 教育事務事業の点検・評価

3 社会教育の充実 [文化推進課所管]

(千円)

No.	事業名	担当課等	事業内容・実施状況	点検・評価	6年度 事業費
1	町民芸術祭開催事業	文化会館	各教室、個人で習得した技術や作品を広く披露するため、展示部門・音楽部門・芸能部門に分かれて発表する。お互いの作品等を鑑賞するとともに、お茶席・華席を設け、伝統文化にも触れる機会を提供する。 ・展示部門の出品数は20部門227点、音楽部門は16グループ235人、芸能部門は31グループ346人の出演者数があった。 ・茶席は、2日間で222名の入場者があった。 ・実施にあたっては、各分野の代表者で組織した運営委員会と委託契約を結び、受付係・会場係・舞台係・リハーサル係等、参加者主体で事業を運営した。 開催日:11月9日～11月10日	【成果】 日頃の文化・芸術活動の発表の場を提供することにより、住民の文化・芸術活動の振興に寄与している。参加者主体の芸術祭であるという意識が根付いてきている。 入館者数 令和5年度2,759人→令和6年度2,473人 毎年アナウンスを太子高校放送部、ポスター・パンフレットのデザインを太子高校美術部に依頼し、多くの参加者から好評を得ている。 音楽部門(313人→235人)は出演者が減ったが、芸能部門(343人→346人)は増えた。 【課題】 令和7年度は文化会館が大規模改修工事により、使用できないため規模を縮小しての開催となるため、展示方法等を検討する。	875
2	公募美術展開催事業	文化会館	近隣地域からも、質の高い美術展として認識され、書・陶芸・絵画・写真の4部門から公募している。毎年、町内外から優れた作品が出品されている。 令和6年度は書40点、陶芸26点、絵画55点、写真106点の出品があった。 賞は、町長賞・議長賞・教育委員会賞・文化協会長賞・太子ライオンズクラブ賞・観光協会長賞・奨励賞・神戸新聞社賞である。 開催日:10月10日～13日	【成果】 様々な作品を展示することで、出品者の技術向上や来場者においては、芸術に親しみ、感性を高める機会を提供することができた。 出品数は、227点(令和5年度は251点)であった。 【課題】 運営委員・実行委員のメンバーが高齢化しているため、次世代の人材を確保していく必要がある。 令和7年度は文化会館が大規模改修工事により、使用できないため規模を縮小しての開催となるため、展示方法等を検討する。	1,058

令和7年度（令和6年度事業対象） 教育事務事業の点検・評価

3 社会教育の充実 [文化推進課所管]

(千円)

No.	事業名	担当課等	事業内容・実施状況	点検・評価	6年度事業費
3	文化団体育成事業	文化会館	文化協会は、地域の文化振興に寄与し、参加する団体及び個人会員の幅広い交流と相互理解を深めながら、技術の向上をめざすことを目的に設立される。町民の文化・芸術の振興に大きく貢献し、町への協力事業としては、トライやるウィークや公募美術展、月見の會(観月会)などがある。 ・今年で11回目を迎えた年賀状コンクールは、274通の応募があり、役場1階住民ギャラリー、太子郵便局で展示を行った。 ・文化会館ロビーにミニギャラリーを設け、美術部門(写真・コパークラフト・陶芸・日本画・俳画・水墨画)の展示を1月単位で行うとともに、常時作品の紹介をHPに掲載している。 ・華道部(華道池坊・MOA光輪花クラブ・未生流・嵯峨御流)においても、ホールの花の展示スペースに、1月単位で常時作品の紹介を行い、HPに掲載している。 [登録団体・登録者数] 25グループ 357人(令和5年度 25グループ 356人) 1 美術部門 計 89人 絵画部・写真部・陶芸部・コパークラフト部 2 芸道部門 計 103人 茶道部・華道部 3 芸能部門 計 165人 箏曲部・大正琴部・舞踊部・民謡部・詩舞道部・播州音頭部 フラダンス部・良さ恋部	【成果】 文化協会は、町の文化・芸術の振興について、中心的役割を担う団体であり、大きな成果を上げている。 【課題】 グループ数及び会員数が増加していない。 会員が高齢化しているため、会員を講師として、陶芸、写真、伝統文化等の住民参加型体験教室を開催し、若い会員の獲得に努める。	1,750
4	文化会館管理運営事業	文化会館	町民を含めた多くの利用者の触れ合いと交流を図るため、会館施設を提供する。 [令和6年度実績] 貸館利用者数 61,209人(5年度67,826人、4年度 58,519人) (主な会館修理実績) 吸収冷温水機オイルポンプ新規交換作業 171,600円 駐車場歩道平板修繕 125,070円 (新たな業務委託) 文化会館外建物維持改修実施設計業務委託 30,800,000円	【成果】 大ホール、中ホールの利用が減少したことにより、文化会館使用料が前年度比で3,218,975円減収した。(5年度 16,771,970円、6年度13,552,995円)。 【課題】 令和6年度に行った実施設計をもとに、大規模改修工事を実施する予定である。	113,420

令和7年度（令和6年度事業対象） 教育事務事業の点検・評価

3 社会教育の充実 [文化推進課所管]

(千円)

No.	事業名	担当課等	事業内容・実施状況	点検・評価	6年度事業費
5	自主文化芸術事業	文化会館	・優れた芸術・文化に触れる機会の提供や、会館を活用した文化活動の支援を行う自主事業を実施した。 ・自主事業20公演を実施し、入場者数は5,214人(5年度は12,777人)であった。 ・なつやde文化村では、人形劇、映画上映会、ミニ日本庭園づくり、絵本の読み聞かせなどを実施した。 ・中庭で開催した黄昏コンサートでは、キッチンカーなどを募集したところ、4店舗の出店があり、仲間と楽しみながら音楽に触れていただくことができた。 ・大規模改修工事により約2年間の休館前最後の音楽発表の場として、かんしゃ祭～みんなでコンサート～を実施した。 ・住民参加型事業として、新たに陶芸体験教室、写真体験教室・写真展、クリスマスリース体験教室、合唱体験教室、ヨガ体験教室を実施した。	【成果】音楽や講演会など、子どもから高齢者まで楽しめる幅広いジャンルの自主事業を展開し、町民が文化・芸術に触れたり、参加したりする機会を提供することができた。 かんしゃ祭～みんなでコンサート～は、休館前最後の音楽発表として文化会館利用者に参加を募ったところ、24団体の応募があった。「年齢問わずさまざまな音楽を聴くことができるいい機会になった」「演奏しやすかった」など出演者、入場者から好評を得た。 【課題】 貸館来館者数、事業入場者数ともに減少した。休館明けの事業展開について検討する。	2,500
6	文化財調査整理事業	社会教育課 文化財係	埋蔵文化財の調査及び出土品等の整理・収蔵を行い、文化財を総合的に把握し、地域の歴史・文化の記録に努めた。 [具体的な内容] 1 埋蔵文化財の発掘調査 2 出土品の整理 令和4年度本発掘調査「吉福西遺跡」出土遺物整理作業 文化財調査事務所の遺物・図面整理作業 3 埋蔵文化財の問い合わせ及び取扱い手続き 届出51件 4 開発事業に伴う試掘・確認調査 斑鳩寺西遺跡 ほか 計15件	【成果】 経済活動の活発化に伴い、町内での宅地造成工事が急激に増え、試掘・確認調査は令和6年度16件(令和5年度11件)に増加した。同様に、埋蔵文化財の問い合わせ及び取扱い手続きのうち、県とのやり取りが必要な発掘届出も令和6年度51件(令和5年度30件)となり急増している。 また、大規模町事業である沖代米田の土地利活用検討事業に先立つ試掘確認調査を実施し、事業対象区域の埋蔵文化財の状況について、調査・記録を行うとともに、埋蔵文化財の有無について回答を行った。 【課題】 令和5年度に採用した文化財調査担当職員は2年目を迎え、急増する各種調査・届出の対応を着実にこなしているものの、大規模事業(沖代米田地区の開発、石海中部地区のほ場整備など)が予定されていることや文化財調査事務所の移転などの課題が一挙に発生していることから、業務の増大への対応が課題である。 地域の歴史文化遺産の保護・活用のためには、今後も、知識や技術の継承を考えた体制の整備が必要である。	8,889

令和7年度（令和6年度事業対象） 教育事務事業の点検・評価

3 社会教育の充実 [文化推進課所管]

(千円)

No.	事業名	担当課等	事業内容・実施状況	点検・評価	6年度事業費
7	文化財保存活用事業	社会教育課 文化財係	現存する文化財を将来へ残し、広く地域住民の活用に資するため、県指定文化財や町指定文化財等の維持管理、修理修復を行っている。 ・兵庫県指定文化財「鵜荘平方勝示石」他2箇所の清掃管理 ・国指定文化財「斑鳩寺三重塔」他3件の管理事業の助成(文化財保存整備費補助事業) ・糸井屋台改修事業への助成(一般コミュニティ助成事業) ・破磐神社広坂神輿改修事業への助成(市町職員互助会、地域伝統文化振興支援事業) ・伝統文化親子教室事業(教室実施型)の提案・申請(沼田獅子連・鵜屋台保存会) ・文化財説明板・説明標柱の新設・更新事業(「旧尾野家住宅説明標柱」、「家形石棺材(旧斑鳩寺境内所在)」) ・町マスコットキャラクター「ぼうじい」の活用 スタンプラリー実施 ぼうじいラインスタンプ販売 使用取扱規程に基づく使用申請件数(4件)	【成果】 史跡の整備(草刈り等整備)、地域の伝統文化保存団体への助成等を行い、地域の文化財が活用される環境の整備に努めた。文化財説明板・説明標柱の新設・更新事業では、町民体育館の西側に保存されている石棺材の一部についての説明板を設置、また、旧尾野家住宅説明標柱の更新を行った。 糸井屋台、広坂神輿への助成を行い、地域のコミュニティ活動の充実・強化を図った。 鵜荘勝示石にちなんだ町マスコットキャラクター「ぼうじい」を活用し、地域の幅広い年齢層の人たちに文化財保護について関心を持っていただくとともに、認知度を高めることができた。 【課題】 今後、文化財保護の啓発と地域の身近な文化財の活用手法について、体系的かつ長期的な計画を立てる必要がある。そのためにも、文化財の専門的知識を持った職員の育成が必要である。 また、「ぼうじい」の効果的な活用方法について、万博などの契機を捉え、観光部局や太子町のシティプロモーションチームなどと協力し、グッズ製作や販売配布、イベントへの出展を検討していきたい。	10,035
8	歴史資料館 子ども対象 歴史教室開設事業	歴史資料館	小・中学生を対象に、体験しながら歴史や文化を学ぶ「歴史探検隊」を7回実施した。4回は地域の文化財めぐりを実施し、3回はワークショップとして文化会館創作室などを会場として実施した。文化財めぐりについては、安全管理に配慮し、小・中学生だけの参加とならないように、保護者及び一般の方にも参加してもらった。 [実施状況] 1 6月8日 檀特山から町を眺めてみよう 2 8月10日 ミニ日本庭園作り～枯山水の庭を学んで作ろう～ (なつや de 文化村関連イベント) 3 9月28日 太田地区の文化財めぐり 4 10月26日 石海地区の文化財めぐり 5 10月27日 着物を着てお駕籠に乗ってみよう！ 6 11月30日 紺紙金泥しおりを作ろう 7 12月14日 龍田地区の文化財めぐり このほか、石海小学校対象の夏のふれあい教室での文化財めぐり、学校への出前講座など、町内の学校との連携にも努めている。	【成果】 企画展「近世の村と大庄屋の庭園」や特別公開「釈迦三尊十六羅漢像」の内容に関連するワークショップを行い、歴史資料館の展示にも興味を持っていただく事業を展開することができた。歴史探検隊の事業としてはのべ131人(うち小中学生87人)が参加し、参加者は前年度比で18人増加し、ほぼ横ばいであった。 ・地元の子どもたちに太子町の歴史や文化に触れてもらう機会を提供できた。 【課題】 講座内容の充実や新たな体験講座の開発を考える際には、事前の調査・検証が必要であり、現状専門員を含めた学芸員2人体制で、知識経験の引継ぎを行いながら事業を実施している。 ・地域の歴史文化遺産をまちづくりに生かすためにも、調査研究、保存活用、普及啓発の充実が必要であり、知識や技術の継承及び長期的な計画の元での体制の整備が必要である。	0

令和7年度（令和6年度事業対象） 教育事務事業の点検・評価

3 社会教育の充実 [文化推進課所管]

(千円)

No.	事業名	担当課等	事業内容・実施状況	点検・評価	6年度 事業費
9	歴史資料館管理運営事業	歴史資料館	・太子町の歴史を紹介した常設展示を行うとともに、斑鳩寺所蔵の文化財の特別公開を行った。 1 「釈迦三尊十六羅漢像」 11月2日～12月8日 2 「十二天画像」 令和7年2月22日～3月31日 ・地域の歴史に関連するテーマで企画展示を行った。 1 「近世の村と大庄屋の庭園」 7月20日～9月1日 開館37日 ・適切な環境下で、所蔵資料・受託資料を保管した。 ・突発的な故障として、下記の修理工事を行った。 1 トイレのパキュームブレーカー(逆流防止弁)取替 2 特別収蔵庫空調機器のヒーター修理	【成果】 江戸時代後期の太子町域の大庄屋制のもとでの村々の暮らしや大庄屋の仕事に触れる企画展を行った。展示資料として令和2年度に町指定文化財となった横山家庭園や同庭園を作ったとされる大庄屋田寺家の関連資料を紹介し、企画展に関連する歴史講座や横山家庭園の特別公開を行うことができた。 ・企画展来館者数は昨年度の「絵図がかたどるもの―太子町の絵図から―」と比較すると71人増加し、微増となった(令和5年度:40日で517人、令和6年度:37日で588人)。 ・これらの展示事業に合わせ、関連の歴史講座を実施し、町内外の人々に、太子町の歴史や文化に対する興味や関心を高めてもらうことができた。 ・貴重な文化財・収蔵資料を、適切な環境下で保管することができた。 【課題】 令和6年度入館者数は、前年度と比較すると増加(令和5年度:2,595名→令和6年度:3,153名)した。企画展をはじめ特別公開「釈迦三尊十六羅漢像」の展示資料の科学分析など新聞、WEB情報サイトなどに掲載いただき、入館者数の増加に繋げることができた。しかしながらコロナ禍前(令和元年以前)には太子あすかふるさとまつりの会場が文化会館一帯であり、当日は普段資料館を訪れない層の多数の入館者を見込めたが、複合イベントが少なくなっていることから新規層へのアプローチを中期的に考えていく必要がある。 ・今後も、引き続き展示企画を充実させつつ、町広報やHP、SNS、庁舎デジタルサイネージ等を利用した広報に努め、展示観覧者・事業参加者の増加を図りたい。 ・常設展示について、リニューアルを考える時期に来ている。また、大規模改修では対象外となっている展示室のLED化等の展示設備の改修も行う必要がある。 ・大規模改修期間は、歴史資料館での展示事業も停止するが、役場情報ギャラリーでのミニ展示を行い、資料調査の成果や季節に合わせた展示を継続していきたい。 ・休館期間前後には、ほ場整備の関係から石海地区荘園調査を行う必要がある。また、同期間は、調査研究や収蔵資料の整理など資料館業務の基礎的な活動を深める期間とし、調査手法や知識技術の継承を行いながら改修後の展示・講座等の事業に反映させていきたい。	22,025

令和7年度（令和6年度事業対象） 教育事務事業の点検・評価

3 社会教育の充実 [文化推進課所管]

(千円)

No.	事業名	担当課等	事業内容・実施状況	点検・評価	6年度事業費
10	おはなしの時間、絵本の時間の開催事業	図書館	1 定期的行事 (1) おはなしの時間 83回 455人 毎週土曜日、ろうそくの灯のもとで昔話や物語の一部を語る「ストーリーテリング」、絵本の読み聞かせ(約30分) ア 小さい人のおはなしの時間(4歳～小学2年生) イ 大きい人のおはなしの時間(小学3年生～中学生) (2) 絵本の時間 44回 327人 2・3歳児と保護者に、図書館員が絵本を読み聞かせた。 毎週木曜日・毎月第3日曜日に開催。(約20分) 2 臨時的行事 (1)絵本の時間(なつやde文化村)8月10日 29人(子17人 親12人) (2)「おはなしの夕べ」8月16日 ア 小さい人のおはなしの時間(4歳～大人)24人 イ 大きい人のおはなしの時間(高学年以上)17人 (3)「クリスマスおはなしの時間」12月21日 ア 小さい人のおはなしの時間(4歳～大人)29人 イ 大きい人のおはなしの時間(高学年以上)25人 3 学校・幼稚園・保育所との連携 (1) 施設へ訪問 保育所・幼稚園・学校へ出向き、絵本の読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークを行った。(56回) (2) 図書館に来館 保育所・幼稚園・学校から図書館に来館した際に、施設の説明と館内の案内を行った。(11回 412人)	【成果】おはなしの時間・絵本の時間ともに、子どもと絵本やおはなしを楽しみ、薦めたい本を手渡すよい機会になっている。参加するともらえる職員手作りのシールも好評で、集めるのを楽しみにしている子もいる。 おはなしを語るボランティアが1名増えたことで、子どもたちにより多くのおはなしを楽しんでもらえるようになった。 絵本の時間は、保護者も絵本を楽しみながら、どんな絵本を選べばよいかを伝える場となっている。11月より参加者が多くなり、初めは落ち着きのなかった子も絵本を楽しめるようになってきた。 ・定例のおはなしの時間には保護者は参加できないが、夏休み、クリスマスには、保護者も子どもと一緒に楽しむことができ、おはなしの時間をPRするよい機会となった。 ・斑鳩保育所、石海保育園へ定期的に訪問し、ストーリーテリングや絵本の読み聞かせを実施し、斑鳩保育所には毎月訪問時に図書貸出を行った。また、斑鳩保育所、太田幼稚園から来館した5歳児への本の貸出を行った。 ・小学校の施設見学を機に、「おはなしの時間」に来る子どもが増えた。 【課題】 ・職員の体制が整わず、学校訪問が実施できたのは3学期のみだった。学校訪問でのストーリーテリング、ブックスタートをきっかけに図書館に本を借りに来る子どもがいるため、安定して訪問を実施したい。	0

令和7年度（令和6年度事業対象） 教育事務事業の点検・評価

3 社会教育の充実 [文化推進課所管]

(千円)

No.	事業名	担当課等	事業内容・実施状況	点検・評価	6年度 事業費
11	図書館管理運営事業	図書館	蔵書の充実を図り、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層の利用者に貸し出すとともに、レファレンスサービス、移動図書館などを実施した。 [令和6年度の状況] 1 蔵書数 169,676冊(受入冊数 3,595冊) 2 個人貸出(全体) 利用者数38,159人、貸出点数138,999点(CDを含む) (1) 移動図書館の貸出(内数) 利用者数404人、貸出点数1,993点 (2) 播磨圏域広域利用者の貸出(内数) 利用者数6,985人、貸出点数23,473点 3 除籍数 2,022冊 (1) 一般図書 1,594冊 文化会館常設のリサイクル図書コーナーで住民提供 (2) 児童書428冊 一部斑鳩保育所に提供 4 ブックスタート事業 来館した親子は182組 乳児と保護者に絵本を配布し、読書相談を行う 5 本と利用者を結ぶ多彩な催し (1) 一日図書館員 4月23日 3人 (2) 13歳からの読書会 8月18日『ぼくとくらしたフクロウたち』10人 (3) スタンプラリー(絵本・おはなし) (4) ひと箱市 10月15日 11人 (5) 消しゴムはんこでクリスマスカードを作ろう! 2回34人 (6) ちいちゃい秋まつり 10月22日 (7) 工作教室 夏休み工作教室(段ボール工作) 7月28日 6組12人 8月10日 6組13人 オリガミカイト工作教室 2月22日 9人 (8) 「本の福袋」 12月 354冊 (9) 読書講演会 59人 (2月23日:30人 3月23日:29人) 野鳥講座「宮沢賢治『よだかの星』のヨタカ」 「身近に考えたい野鳥たち」 講師:三木敏文さん 6 推薦図書リストの作成(小・中学生向け) 7 役場の各課との連携事業 認知症、自殺対策、男女共同参画等 8 研修・職業体験等の受入 教職員初任者研修(8人)、図書館実習(1人)、 トライやるウィーク(4人)等 9 図書館の備品等の整備 防排煙垂れ壁修理(5月)、読書会室ブラインド取替(6月) 一般開架室ソファ張替え(9月)、電話回線切替(10月) おはなしの部屋クロス張替え(1月)	【成果】 ・「ひと箱市」(個人が不要図書を持ち寄り他の人へ譲る催し)や、絵本スタンプラリー、「ちいちゃい秋まつり」「本の福袋」などの行事を継続して実施し、開催を楽しみにしている人が多い。 ・三木敏文さんを講師に野鳥講座を2回開催。身近な野鳥から環境を考えるきっかけとなる講座だった。 ・季節やその時々ニュースから特集を考え図書展示を行うことで、普段利用のない分野の本の貸出につなげた。利用者にも好評であった。 ・絵本のスタンプラリーは、楽しみながら幅広く本を読むことにつながっている。 【課題】 ・貸出冊数、利用人数とも令和5年度より減。(△682人、△6,900冊) ・現在図書館を利用している人だけでなく、より多くの町民に興味をもってもらえるよう、広報たいしやSNSで図書館活動を紹介していきたい。 ・移動図書館の利用が少ない巡回地区があるため、巡回地区の見直しが必要。	49,657